



針灸臨床家必読の書

病気の原因は種々あるが、治療の目的はただ1つ。

それは「通」である。

中国を代表する針灸家の一人、賀普仁氏がまとめ上げた三通法を学ぶための決定版。

「通」を基本に据えた賀氏の3つの通法をあますところなく紹介。三通法とは、微通・温通・強通の3つの針法のこと。

▶微通法とは、毫針による刺針法 ▶温通法とは、火針および灸を用いた針灸の方法 ▶強通法とは、三稜針による刺針を主とする刺絡法

三通法は、『内経』の通調理論にもとづき、さらに歴代の医家の経験を吸収して、

著者の臨床経験によって総括した、極めて実践的な針灸。

賀普仁＝著／名越礼子＝訳／賀偉＝日本語版監修

A5判／352頁／並製／定価：4,200円（本体4,000円＋税）送料210円

中医学を学ぶための雑誌『中医臨床』（季刊）ますます面白く、実用的な内容になっています。



東洋学術出版社

ご注文は、メールまたはフリーダイヤルFAXで

FAX.0120-727-060

販売部：〒272-0823 千葉県市川市東菅野1-19-7-102 電話047-321-4428／E-mail:hanbai@chuui.co.jp／ホームページ <http://www.chuui.co.jp>

針灸三通法

「通」を基本に据えた
賀氏の3つの通法のすべて。

賀普仁＝著／名越礼子＝訳

賀偉＝日本語版監修

A5判／352頁／並製

定価4,200円（本体4,000円＋税）送料210円

針灸三通法

■目次と内容見本

序
本書を読むにあたって

第1章 緒論

第1節 賀氏針灸三通法の概略

賀氏針灸三通法の基本は「通」/賀氏針灸三通法の基本は微通・温通・強通の3法

第2節 針灸三通法の形成

賀氏針灸三通法の理論的な基礎は『内経』/賀氏針灸三通法は歴代の医家の思想の精髓を吸収/賀氏針灸三通法は個人の学術経験の融合

第2章 微通法

第1節 微通法の特徴

第2節 針に熟練するための身体トレーニングと気の練功

第3節 微通法の施術

刺入/候気/行気法/補瀉法/置針法/抜針法

第4節 正しい刺激量の決め方

臨床症状の分析/年齢による区別/職種による区別/性別による区別/肥瘦による刺激量の区別/季節および気候の影響/気候風土と習慣/部位による違い

第5節 刺激の効果と臨床実践

第6節 適応症と注意事項

第7節 典型的な症例の治験

脳血管障害/眩暈[めまい]/暈厥[失神]/脳振盪後遺症/小舞踏病/頭揺/癲癇/癲狂[精神障害]/癔病[ヒステリー]/微熱/慢性気管支炎/胸膜炎/震顫[振顫]/肩関節周囲炎/腰腿痛/顔面神経炎[顔面神経麻痺]/偏頭痛[片頭痛]/周期性麻痺/橈骨神経麻痺/心筋異常/嘔吐/呃逆[しゃっくり]/放射線障害/腸癒着[腸管癒着症]/水腫[浮腫]/慢性腎炎/淋病/癰閉[排尿障

害/排尿困難]/遺尿[夜尿症]/遺精/陽痿[インポテンス]/肛門瘻/口舌潰瘍/失音[失声症]/網膜炎/視神経萎縮/複視/眼瞼下垂/斜視/白内障/鼻炎/耳鳴り・耳聾[難聴]/甲状腺腫大/リンパ節炎/白癩風[白斑]/湿疹/蕁麻疹/神経性皮炎/鵝掌風[手部慢性湿疹]/対側性進行性掌蹠紅斑角皮症/脱毛/脱肛/蟻虫病[ぎょう虫症]/子宮脱/不妊症/卵管留水症/子宮筋腫/溢乳[乳汁漏出]/小児麻痺[ポリオ]/驚厥[小児のひきつけ]/知恵遅れ/多動症/口吃[どもり]

第3章 温通法

第1節 火針療法の歴史

火針の品質/火針の加熱/火針の刺法/火針の刺入深度/火針の適応症/火針の効果

第2節 温通法の特徴と適応症

祛寒除湿/清熱解毒/消癰散結/祛腐排膿/生肌斂瘡/益腎壯陽/昇陽挙陷/温中和胃/宣肺定喘/通經止痛/祛風止痒/解痙止攣/除麻

第3節 温通法の針具

細い火針/中ぐらいの太さの火針/太い火針

第4節 温通法の施術

火針療法における操作上の必要事項

第5節 温通法の刺法

針具の太さの分類/刺針方法の分類/抜針の速さの分類

第6節 典型的疾患の治療例

脳血管障害の後遺症/哮喘[喘鳴を伴う呼吸困難]/胃下垂/腸管癒着症/便澇[下痢]/顔面筋痙攣/鶴膝風[膝関節の腫大・疼痛]/痿証[四肢の運動麻痺]/小児麻痺後遺症/多発性神経炎/脳振盪後遺症/アキレス腱断裂/捻挫/頸部リンパ節結核/甲状腺腫/血管腫/耳下腺

炎/多発性大動脈炎/閉塞性血栓性血管炎/血栓性静脈炎/下肢の慢性潰瘍/皮下腫瘤/腱鞘囊腫/卵巣囊腫/膀胱[鼠径部の癰腫]/乳がん/外陰白斑/バルトリン腺膿瘍/神経性皮炎/凍瘡[しもやけ]/翼状片/鼻出血/鶏眼[うおめ]

第4章 強通法

第1節 瀉血療法の歴史

第2節 強通法の特徴とメカニズムと応用

解熱作用/止痛作用/解毒作用/瀉火作用/止痒作用/消腫作用/痺れを治す作用/嘔吐を抑える作用/止瀉作用/救急治療

第3節 強通法の針具と刺法

三稜針/毫針/梅花針/緩刺法/速刺法/挑刺法/圍刺法/密刺法

第4節 強通法の特徴と注意事項

患者の禁忌/手法の禁忌/大・中動脈の刺針の禁忌/腧穴を正確に取る/消毒を徹底する/針具が鋭利である/持針の確実性

第5節 典型的な疾患の治療例

発熱/流行性脳脊髄膜炎/高血圧症/三叉神経痛/麻木[痺れ・知覚麻痺]/急性胃腸炎/疳積[小児の慢性栄養不良]/急性結膜炎/酒皰鼻/脱毛症/瘡瘡[アクネ]/黃褐斑[肝斑]/毛囊炎/湿疹/帯状疱疹/アレルギー性皮炎/汎発性神経性皮炎/牛皮癬[乾癬・鱗屑癬]/舌腫[舌が腫れて痛む]/丹毒/下肢静脈瘤

[参考資料] 賀氏針灸三通法による頸椎症治療 265 例の臨床報告
臨床データ/治療方法/治療結果/典型的な症例/考察

【付録】本書で用いられた腧穴の一覧表
あとがき
索引

第3章 温通法

火針療法における操作上の必要事項

1. 腧穴を定める

直接病巣局所に刺針する場合はもちろん、経穴あるいは圧痛点を探す場合も消毒して、刺針する前に選んだ腧穴に印をつける。通常は、拇指の爪で押して×印をつけ、刺針の正確性を期す。

2. 消毒

腧穴を決めたら、25%のヨードチンキをつけた綿花で、腧穴を中心に同心円を描くように消毒し、その後75%のアルコール綿で同様の方法で同心円を描きながらヨードチンキを拭き取る。アルコールが乾いてから施術をする。病巣が切れたり崩れたりしているものに直接刺針するときは、ヨードチンキやアルコールで破損部位を直接消毒してはならず、生理食塩水を綿花に浸して拭き取るか、洗い流すのがよい。

3. 針体の加熱

消毒が終わったら、アルコールランプに点火し、左手に持って、刺針する腧穴あるいは部位に近づけ、右手で筆を握るように針を持ち、針尖と針体を炎に入れる（図3-3）。刺針に必要な深度に応じて、針体が赤くなる長さを決め、必ず赤くなるまで焼くようにする。針が赤くなれば効力も強くなり、疾病を完全に取除くことができ、効果も速く現れる。また針が赤くなれば、刺入して切度をするときに、入りやすく苦痛も少ない。針体が赤くなっていれば効果があり、赤くなっていなければ効果はない。針を焼くときに炎に入れる方法にもコツがある。けっして針体を炎の中心に入れない。炎の中心は温度が低く、熱力が足りない。赤くなるまで針体を焼くことができない。炎の周辺は熱力が十分にあり、温度が最も高く、速く焼けるので針が赤くなりやすく、針を焼くのに最も適した

第4節 温通法の施術



図3-3 針体を炎に入れ加熱する

4. 刺入

針を焼いて赤くなったら、針が赤いうちに迅速かつ正確に針を腧穴に刺入し、すばやく抜針する。この一連の過程はだいたい10分の1秒である。動作が緩慢で時間がかかれば、針体の温度は下がり、針体が十分に加熱されていない状態となり、患者に苦痛を与え、また治療効果も低下する。そのため火針療法の技術のキーポイントは「速い」ことである。迅速に刺入しようと思うなら、操作技術を磨くだけでなく、ある程度の指力と腕力が必要になる。気功をうまく運用することができれば、刺入速度を更に高めることができる。

5. 火針の置針問題

火針療法は、速く刺すことが重要なので、ほとんどは置針しない。ただし患者によっては置針を必要とする。しかし置針時間は毫針の場合よりも短く1～5分程度である。火針で置針するときも、得気と手の感覚に注

第4章 強通法

第4節 強通法の特徴と注意事項



図4-5 ②血を搾り出す

3. 挑刺法

この刺法は、胸部・腹部・背部・頭部・顔面部の腧穴や筋肉の薄い部位に適用する。「羊毛疔」[季節の邪を感じて突然発する疔]・「偷針風」[麦粒腫]などの症状に用いる。刺針時に胸背部の変色した部位を正確にみきわめて、左手でその部位の皮膚をつまみ上げ、右手に「三稜針」を持って横から引くように刺す。

4. 圍刺法

この刺法は、施術時に赤く腫れた患部の周囲を「三稜針」で数カ所あるいは数十カ所点刺する。刺針後、両手指で局所を軽く押えて搾り出すか、抜腫で吸い出す。悪血が出尽したら、腫痛はなくなる。この方法は、癰腫・癰疽および大頭腫[季節の邪毒が三陰経絡に侵入して起こる病症。顔面丹毒・流行性耳下腺炎などの類]・丹毒などの症に適用する（図4-6）。

5. 密刺法

この方法は、皮膚病・頑癬[難治性の湿疹・浅在性白癬など]などに適用する。施術時は、梅花針で患部をたたき、局所から微量の血液を出す。治療効果は比較的良好。



図4-6 ①患部の周囲に圍刺法を行う②血を搾り出す

第4節 ● 強通法の特徴と注意事項

瀉血療法は、強硬な手法であり「強通法」に属し、実証・熟証に対して特異な治療効果がある。もちろんいかなる治療方法にも、ある病症に対して顕著な効果があっても、別の病症には禁忌であるということがある。瀉血療法にも禁忌がある。